

励みと元気を分け与えていただいた嬉しいお便り

～ 一年間、ご支援をいただきました皆様へ感謝を込めて～

立科町教育相談員 岩上起美男

過ぎ去ったことの大変さは、時間の経過とともに薄れていくものなのでしょう。厳寒の冬の終わりさえ名残惜しく、初冬の木枯らしや凍結した雪道さえも懐かしむ気持ちで心のどこかで感じながら、その一方で、やはり心待ちにしていた春三月が、ようやく到来し、今年度の「シリーズ 一緒に考えましょう!」も節目の12回目を迎えました。

3月は、一年間のまとめの時期であり、出会った人はいつか必ず別れるという会者定離の時節です。そのため、ご支援とご鞭撻を賜りました方々、折々にご感想やご意見をお寄せいただきました皆様に、心より感謝を申し上げます。

大袈裟かも知れませんが、古い世代が、若い世代に伝えるべきことを伝えることが、今日の日本の大きな課題であると考え、古い世代の一員としての役割を果たそうと、毎月、ささやかな体験と苦い反省に基づいた提言をさせていただきました。なぜなら、これも大袈裟で、それだけのことかも知れませんが、古い世代が口を閉ざし、その経験と知恵を語らぬことは、直き心の国・日本の将来のために不可欠な「伝承」という営みを失う最大の原因である、と本気で考えているからです。そのため、つい背伸びして、ついっ

い偉そうなことを申し上げている自分に赤面して、「自分が十分できもしないのに、偉そうに……。」という自責の念に苛まれていきます。のみならず、提言が少しでも子育てのヒントになれば……という老いの願いは、言わずもがなのお節介ではないか、と悶々としています。したがって、元より多くの方が看破されていることですが、平身低頭して、くれぐれも非の打ち所のない聖人君子が得意満面に高邁な訓示を垂れているなどと思えないされないように、平にお願い申し上げます。

このようなジレンマと気恥ずかしさを必死に堪えて、提言をさせていただいておられますので、同感や共感、激励など、温かいお言葉に接しますと、その方のお人となりと度量に深い敬意を覚えるのが常です。と同時に、昨今、このままでは近い将来、日本は沈没するという不吉な予言をする輩がいますが、このような「直き心」「寛き心」「聡き心」「勁き心」「篤き心」を有する方がいる限り、絶対に日本は沈没などしないという頼もしさを抱くのも常です。

今年度も、篤志の方からご感想や激励のお言葉を寄せいただき、何度も、また頑張ろうという励みと元気を分け与えていただきました。

7月、「辛くとも 人の話は終わります

で黙って聴くが礼儀とぞ知れ」という提言を申し上げましたところ、子育て真っ最中のお母さんから、「講演会などで、私はお喋りをしていたことがありません。あまり悪いことは思っていないのです。でも、いけないということがよく分かりました。これからは注意します。」と言われました。このような方が増えれば、PTA校長講話や音楽会、儀式、授業参観などにおける親御さんの心ないお喋りがなくなるのではないかと、非常に嬉しく思いました。

「広報たてしな12月号」が、各ご家庭に配布された数日後、或る方から心温まるお便りをいただきました。

「広報たてしな」の先生の連載記事を、毎号、うなずきながら読ませていただいております。今月の「嬉しいもの、懐かしいものとして、いつまでも心に残る褒められた思い出」も、夫と一緒に心から納得して拝読致し、もうずっと昔のことになります。我が子（長男）に寄り添って、励まし続けてくださった中学校の保健体育の先生、A先生を懐かしく思い出しました。

我が家の長男は、スポーツはとても好きなのですが、投げて、走っても、跳んでも、とにかく上手ではありませんでした。この長男が、或るときのお知らせで